

世界の外貨準備の通貨構成から見えること

今年の第一四半期末の世界の外貨準備の通貨構成のデータが IMF から発表された。今回のデータで特筆すべき点は、イラン戦争でドルからのシフトが顕著に起こらなかったことだ。

この点では昨年 4 月のトランプ関税の発表により、ドルからのシフトが発生した状況とは違った。この時は準備資産のシフトだけでなく、先物のドル売りによる為替レートのヘッジが目立った。

今年 2 月末に始まったイラン戦争はドル離れを加速するとの見方もあったが、一部金などへのシフトはあったものの、大勢に影響は与えなかった。むしろ市場では有事のドル買いによりドル需要の増加も見られた。実際前期に比べ外貨準備でのドルの割合は増加した。

各通貨の割合の変化は次の通りだ。

- ① ドルの割合は 57.13% だった。前期の 56.42% から増加した。理由は為替レート(ドル高)要因があるが、他に戦争による安全通貨としてのドルへのシフトもあった。だが中長期でのドルの低減傾向が変わったわけではないのでドルの増加が今後も続くとの判断はできない。
- ② ユーロは 20.03% だった。前期 (20.38%) より低下した。ドル高ユーロ安の為替レートの変化が主な変動要因だ。ユーロはこのところ 20% 前後で安定的に推移している。
- ③ 人民元は 1.99% だった。前期より若干増えた。人民元は 25 年第一四半期から 2% を割って 1% 台に低下したままだ。今年になって習近平が外貨準備での人民元の利用を増やすと言った。国際通貨としての人民元の地位を上げるためだ。

だが今のところ目立った成果は上がっていない。人民元の国債は低金利だが流動性もあり準備資産としては妥当に思われるが、資本取引規制は依然として強く残り、法的な安定性にも不安がある。人民元の割合は 2% 台の

後半くらいまでは容易に戻っても、それ以上を目指すには規制緩和や法的な整備が必要になる。

- ④ 円は 5.44%に減少した。前期 5.84%から大幅な減少だ。円金利上昇による債券価格の下落が主因だ。これまで円は 5%台の高いレベルで安定していたが、今後も引き続き金利上昇傾向にあるので割合はさらに低下する可能性がある。
- ⑤ ポンドの割合は 4.40%だ。前期とほぼ変わらずだが、傾向としては低下方向だ。景気、財政、政治など各面で懸念材料に事欠かない。積極的にポンドの割合を増やす環境にはない。
- ⑥ オーストラリアドルとカナダドルの割合は、それぞれ 2.11%、2.48%だった。前者は増加傾向、後者は減少傾向にある。
- ⑦ その他通貨は 6.18%で前期より若干低下した。7 期連続で前期を上回っていたが今期は減少した。それでも 6%台は維持し、全体として通貨の多極化傾向の流れを保っている。

以上です。